

江北の四季

令和2年
5月31日
第9号



この花の名前は？

○麦秋至。第二十四候、小満、末候が「麦秋至」で、「ばくしゅういたる」あるいは「むぎのときいたる」と読むそうです。五月の連休に植えられた水田は稲株の分けつも進み青々としてきた一方で、減反による集団転作の麦は熟して黄金色になってきました。三月から五月にかけては、草木の緑が若葉色、萌葱色(もえぎいろ)と呼ばれるものから日ごとに濃くなり新緑がまぶしくなりました。一方、花々も黄色から橙色、藤色、赤色と様々に咲き誇ってきましたが、その仕上げのような鮮やかで華やかな黄金色です。風に揺れる一面の麦穂には、初夏を迎えた落ち着きのようなものを感じま

す。



谷空木



谷空木

谷空木を二十七日に生けました。写真右は超簡易な立華新風体(タニウツギとサラサウツギ)、左は立華正風体(タニウツギを前に大きく振り出し、ベニバナトキワマンサクの流しを右奥へ入れて前後120cmのバランスを取り、請けにムギナデシコ、桐と前置きの間にヒノマルウツギを入れました。)

歳時記を見ますと、麦には「麦秋」以外にも様々な季語があります。季節の順に、「麦蒔(むぎまき)」「麦の芽」「麦踏(むぎふみ)」「青麦」「麦雨(ばくう)」「麦嵐(むぎあらし)」「麦打(むぎうち 脱穀の

こと)」「麦埃(むぎぼこり 脱穀するときに出る埃)」「麦藁(むぎわら)」「麦藁帽(むぎわらぼう)」、そして「麦茶」。米と同様、麦も日本人の生活に重要な役割を担ってきたのだと思います。で、この時季に麦と聞く、俳句の感性の無い私が一番にイメーヂするのは、まずビールとなってしまうですね。



トビシャガの花

一日花なのが惜しい



ジュンベリーの実(鳥が毎日来ています)

四月の白い花を生けてよし、赤い実を生けてよし、また食べてよし、秋の紅葉も素晴らしい。



ジャガイモ「トウヤ」

○我が家のガーデナーは野菜作りも熱心で大抵のものは自家栽培しています。ジャガイモも五畝(うね)ほど作っています。ジャガべて品種が異なります。カレーやフライドポテトあるいはバター焼きにしたときに微妙に舌触りが異なり、各料理に合う合わないがあり面白いものです。例年だと白い花



ジャガイモ「ピルカ」
(冒頭の写真も)

のものばかりですが、今年は青い花のものが一番に咲き出しました。ジャガイモはナスやトマトと同じナス科ですが、実をつけるための花ではないので比べると貧弱です

が、見方を変えると清楚できれいな花です。もうすぐ新ジャガがとれると思うと土寄せ作業にも力が入ります。
○閑話休題。スミマセン、話がまたしても、アルコールやつまみの方に落ちて行きそうです。



サラサウツギ

ウツギのトリを飾るのはサラサウツギです。薄いピンクがなんとも愛らしい。面白い枝があったので赤いフロックスとオクロレウカを合わせて生花新風体になりました。



ヤマアジサイ(右の写真も)



キクバイチリンソウ



花菖蒲



燕子花(三番花)

○今朝の雨とともに花菖蒲が咲き出しました。すでに咲き出した紫陽花(アジサイ)と共に雨に似合う花です。燕子花(カキツバタ)が三番花まで咲き進み、もうおしまいだなと思っていたときなので見つけたときは嬉しく思いました。しばらくは庭で楽しみたいと思います。燕子花の葉は優しく美しいですが、花菖蒲は葉の縦に走っている葉脈が硬くしっかりしているのだから生ける花を愛でることになります。だから生けるときには、優美に曲線的に生ける燕子花に対して、力強く直線的に生けることになる

のでしよう。燕子花は女性らしく、花菖蒲は男性らしくと言われるゆえんですね。

ただ、庭の花菖蒲は園芸品種が主なもので、案外柔らかい葉のものが多く、伝統花として生けるときには、野生種に近い葉を借りてきて生けることが多いです。このように書いているときもうまく生けられそうですが、実際は燕子花と同じく四苦八苦して「もう一つだな」と終わるのが常です。生花、特に葉物の一種生は、葉一枚、葉一枚が難しい。剣山でも難しいのに、昔の人は又木を使って……………。



フウロソウ



ホタルブクロ



ドクダミ

休日が雨の日もいいものです。時間がゆっくりと流れていきます。晴れの日の早く流れた時間が戻ってくるかのようにです。傘を差して庭に出ると、雨に似合うのは紫陽花と花菖蒲だけではありません。シモツケ、露草、雪の下、……………、そして、ドクダミの花。日頃は目の敵にしていますが、雨の日には十文字の白い花びらが可憐に思われます。この日ばかりは十薬という別名で呼んでやりたいくなります。



ペンステモンスモーリー

